



撮影:写真同好会 渡邊照芳君

SESERAGI-MISHIMA Rotary Club Weekly Report

せせらぎ三島
ロータリー
クラブ週報

2007～2008年度 国際RI会長 ウィルフリッド・J・ウィルキンソン
ロータリー2008:ロータリーは分かちあいの心



せせらぎ三島ロータリークラブ 会長 古屋 憲男
クラブ会長基本テーマ 「原点を学ぶ」

第906回 例会 2008.5.23 (金) 晴れ

司会:望月保延君 指揮:石井邦夫君
ロータリーソング「それでこそロータリー」

副会長 大房 正治 幹事 西原 克甫

事務所 三島市大社町17-4
Tel.055-976-6351 Fax.055-976-6352
<http://www.mishima-south-ro.gr.jp/>

例会場 三島グランドホテル Tel.055-975-4300
毎週金曜日 第1・第3夜間例会

会長挨拶

せせらぎ三島ロータリークラブ 会長 古屋憲男君

2000年から2005年にかけての5年間で、中国人の一人当たりの生産額は63.4%増加したにもかかわらず、国内総生産(GDP)に占める賃金の割合は12%から10.91%へ下がった。

労働者の収入割合の低下によって、国民消費率(GDPに占める国民の消費の割合)は1991年で48.8%だったのが2005年では38.2%へ下がった。

世界の平均的国民消費率は60%～70%であり、中国は大変低いことが分かる。

■民生事情

中国の医療機構の公平性は、全世界の国の中で下から4番目とされている。(世界保健機関の評定)病気で医者に行くべき人の50%、入院すべき人の30%は、貧困のため通院・入院ができない状態である。

国内において、政府の衛生関係への支出は、国内総生産に占める割合の2.7%にしか達していない。(インド 5.2%・アメリカ13.7%)

中国の国民や企業が負担する税金は、世界の中で第2位か第3位とされており、同時に、政府の行政コストは世界第1位である。

国際的な貧困の定義では「一日の生活費が1USドル以下」をいうが、中国では全人口の18.2%が対象となる。

自殺者人口は世界一位で、世界の自殺者の35%を占めている。

■職業による死亡率は世界第一位。

有毒・有害な業務を行っている企業は1600社を超え、約2億人は職業病の侵害を受けているとされている。

経済は2001年から2003年にかけて毎年10%成長したが、人口13億の内、最も貧しい10%の人口(1億3千万人)の収入は2.4%下がった。(公平に富が分配されていない。)

■展望

2003年までの国の目標は「富国強兵」で、経済成長・GDP・効率に重点をおいたが、2003年以降は国民貧困問題・経済分配・調和ある発展・公平を重視して、制度や法律の改革を進めるとしている。

幹事報告

幹事 西原 克甫君

①平成20年度三島市緑化運動推進協議会定時会開催について

日時:平成20年6月27日(金) 午後1時30分～
会場:三島市役所本館3階 第1会議室

②地区よりロータリー女性会員アンケート集計表が来ております。

Aテーブルから回しますのでご覧ください。

③ホームページの会員広場

IDとパスワードが必要になります。そのIDとパスワードについては会員各位にメールでお知らせいたします。遅くなりましたがご利用ください。

④ホームページの週報のクラブ名が変更できました。是非HPをご覧ください。

以上。

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修正出席率
前々回	31/36	86.11%	32/36	88.89%
今回	24/35	68.57%	会員総数	36名
欠席者 あなたが見えなくて残念でした。				
石井司君、内田君、遠藤君、太田君、大房君、片野君 田中君、土屋君、松下君、山口雅君、山梨君				

おめでとう

入会記念日 5月12日 内田憲一君

😊 スマイルボックス

中村徹君:なんとなく。

山上光喜君:今日、自分の卓話です。時間がなかったので仕事服で来ました。失礼します。

山口辰哉君:昨夜のCテーブル会はとても楽しい席でしたその後、単独行動に移った時、米山さんにバッタリ会い、ご馳走になりました。

山田定男君:昨日22日はテーブル会でしたが、忘れていてドタキャンすることになってしまいました。世話人の山本良一さん、ごめんなさい。遠いところに行っていました。

山本章君:天気が良くて気持ちが良いのでスマイルします。

米山晴敏君:自治功労賞を授賞しました。スマイルします。

Cテーブル会: Cテーブル会を古屋会長、西原幹事に出席していただき、盛大かつ楽しく開催いたしました。

卓 話

「現在の製造業の問題点と今後の状況」 山上光喜君

原料の高騰に伴い材料費が上がり、製品を生産できなくなっている。今まで1t当たり6万～7万円だったものが、

現在では1t当たり13万～14万円くらいになりつつあり、見積りが容易にできない。

世の中では、材料の値上がり分を製品単価に転嫁するように言われているが、親企業からは売値を上げることはできないとして、製品単価の変更は認めてくれなく、逆に安く生産するようにと指示が出る。

しかし、製造会社では企業努力の限界を超えているために、対応ができなくなっている。それでも、販売企業では売値を変えないで加工できる業者を模索している。昔からの信頼関係などはないに等しく、国内が無理なら国外で生産を考えているのが現状である。従って、国内の生産企業は資金力のある企業と、特殊技術を有する企業はまだしも、うちのような資金力も特殊技術も持たない企業は、国内の少ない仕事を同業者と奪い合うような状況である。よって製品単価を上げられずに親企業の言いなりにならざるを得ない。今後日本国内の多くの製造企業が倒産することになると思われる。

次回卓話

5月30日(金) 山本章君

Photo Gallery



古屋会長挨拶



卓話の山上光喜君

